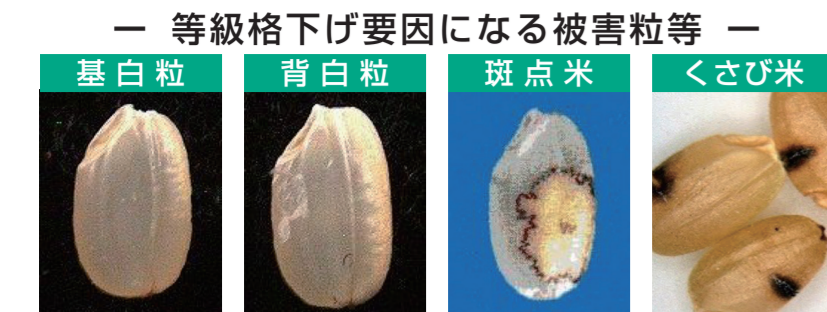


令和7年産稲作ごよみ



適切な管理でこれらの発生を減らしましょう。

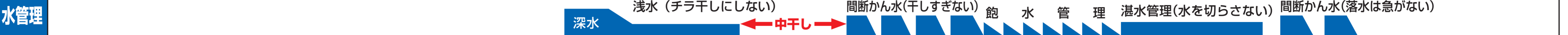
気象変動に負けないコシヒカリを作ろう!!

JA米生産基準
1. 種子更新100%
2. 農産物検査の受検
3. 生産基準にもとづく生産履歴記載
上記3つの要件を満たしたお米をJA米として取扱います。

おいしいお米
なのはなブランド
「八町米」

「安全・安心」な米づくり
・出荷米の生産履歴記帳率100%
・適正農業規範に基づくGAPの実践

月日	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月			
	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25	5	10	15	20	25



コシヒカリの栽培管理ポイント

土づくり

堆肥・珪酸質資材の積極的な施用や地力増進作物の活用

- 有機物の施用**
 - 牛・豚ふん堆肥 …1~2t/10a
 - 発酵けいふん …100~150kg/10a
 - 稲わらは全量すき込む
 - 地力増進作物のすき込み (ヘアリーベッチ、レンガ)
- 土壌改良資材の施用**
 - 珪酸石灰 …200kg/10a
 - シンキョーライトP …60kg/10a
 - シリカロマン …100kg/10a
 - 新アサヒニューテツ …100~150kg/10a
 - スーパーけいさん鉄 …100kg/10a
- 深耕し (現状+3cm)**
 - 秋耕しと春耕しの2回耕しが効果的

◎ 畦づくり ◎
水漏れ防止や20日間の湛水に備えた畦の高さの確保

丈夫な苗をつくる

計画的な育苗作業を田植日にあわせて

● 育苗日数は播種から19日間以内として老化苗にならないようにする
● 一箱当たり100gでカッチリ苗にする

● 搬出直後から換気し、ハウス内の温度は昼間は25℃以下で管理する

換気の徹底

● 育苗日数は播種から19日間以内として老化苗にならないようにする
● 一箱当たり100gでカッチリ苗にする

比重選から田植までのスケジュール

比重選・水沍・種子消毒	4月15日頃
乾燥	4月16日頃
浸種	4月17日頃
播種	4月26日頃
田植	5月15日頃

温度管理の目安

生育期	緑化期	硬化期
項目	2~3	13~15
育苗日数	2~3	13~15
温度	25℃以下	10℃以上
昼	25℃以下	
夜	10℃以上	

太い分げつを早くとる

質の良い分げつを早くとる
活着後、浅水管理 (水深3cm) で
除草剤は適期に散布する
植付本数は3~4本で3cmの浅植にする
栽植密度は70株を確保!
田植えは5月15日を中心!
基肥は標準量を守る

根を十分に張らす

6月上旬に溝掘りの実施
溝掘り前に軽い田干しの実施
中間追肥 (カリ資材等) を散布する
中干し後、幼穂形成期まで間断かん水
畦畔農道等の草刈りを徹底する

分施肥体系の穂肥

- 一回目の穂肥は一回目穂肥の一週間後を目安に施用する
- 二回目の穂肥は幼穂長15ミリの頃に草丈や葉色を確認し慎重に施用する
- 一回目の穂肥は幼穂長15ミリの頃に草丈や葉色を確認し
- 分施肥は穂肥時期までに葉色を3.6に誘導

葉色カラースケール

3	4	5
---	---	---

溝掘り・中干しを徹底しましょう

〈溝掘りの効果〉
・ほ場への入排水を短時間で均一に行える。
〈中干しの効果〉
・発根の促進。
・稲体の活力維持。
・無効分げつを抑制し、過剰剪を防ぐ。
・ほ場全体の地耐力の確保。
※ 極端な干しすぎは穂数の減少につながるので注意する。

飽水管理の目安 (足跡に水がたまる程度)

倒伏させずに、登熟を高める

傾穂期防除の徹底 (カメムシ類、ツマグロヨコバイ)
穂揃期防除の徹底 (いもち病、ウンカ類、カメムシ類)
稲体の活力維持のため、必要に応じて水の入れ替えによる水温低下を図る
出穂後20日間湛水管理 ↓ カドミウムの吸収抑制
● 穂揃期の葉色を4.2~4.5に誘導 (砂壌土地帯は4.5)
● 出穂7日前の葉色が4.0以下の場合追加穂肥を施用 (砂壌土地帯は4.2)

※ 特にフェーンが予想される場合は事前に灌水する
刈取り7日前までの間断かん水を徹底 ↓ 胴割れ粒の発生防止

乾燥機・初すり機等の点検整備
● 高温年は、初黄化率80%から刈取る
● 初黄化率85~90%頃に刈取る

1.9mmの網目を使用し、細粒や屑米の混入を防止し良質米の出荷に努める
初すりの前に水分を再確認する
胴割れ発生防止のため、ゆっくり乾燥する (毎時乾減率0.8%以下)
適正な乾燥で玄米水分「14.5~15.0%」

アカヒゴホソドリカスミカメ
アカスジカスミカメ
トゲシラホシカメムシ
クモヘリカメムシ

作業確認して☐にチェックしましょう。

作業確認して☐にチェックしましょう。

土壌にあった施肥でおいしい米づくり

本田施肥設計例 (10a当たり)

● 基肥一発肥料の場合

品種名	土質	基肥		中間追肥 (6月下旬)		備考
		側条施肥	設計I	設計II	設計I	
コシヒカリ	砂質田	Jコートコシヒカリ1号	40 kg	15 kg	20~40 kg	● 基肥一発肥料を使用した場合でも出穂前に葉色が濃い場合は、追加穂肥を施用しましょう。 ● 基肥一発肥料はリン酸分及び加里成分が不足がちになるので、必ずエスアイ加里らくだ、またはBBPKイ酸を施用するようにしましょう。
	壤質田	Jコートコシヒカリ2号	35 kg	15 kg	20~40 kg	
	粘質田	Jコートコシヒカリ2号	30 kg	15 kg	20~40 kg	
てんかき	砂質田	Jコート早生専用	45 kg	15 kg	20~40 kg	● 基肥一発肥料はリン酸分及び加里成分が不足がちになるので、必ずエスアイ加里らくだ、またはBBPKイ酸を施用するようにしましょう。
	壤質田	Jコート早生専用	40 kg	15 kg	20~40 kg	
	粘質田	Jコート早生専用	35 kg	15 kg	20~40 kg	
てんこり	砂質田	LPSS 晩生専用	50 kg	15 kg	20~40 kg	● 基肥一発肥料はリン酸分及び加里成分が不足がちになるので、必ずエスアイ加里らくだ、またはBBPKイ酸を施用するようにしましょう。
	壤質田	LPSS 晩生専用	45 kg	15 kg	20~40 kg	
	粘質田	LPSS 晩生専用	40 kg	15 kg	20~40 kg	

● 分施肥の場合

品種名	土質	基肥		早期追肥		中間追肥 (6月下旬)		穂肥	
		設計I	設計II	設計I	設計II	設計I	設計II	設計I	設計II
新大方	砂質田	35 kg	30 kg	30 kg	10 kg	25 kg	15 kg	24日	15日
	壤質田	30 kg	25 kg	25 kg	10 kg	20 kg	15 kg	24日	15日
	粘質田	25 kg	20 kg	20 kg	10 kg	15 kg	10 kg	24日	15日
てんかき	砂質田	45 kg	40 kg	40 kg	10 kg	35 kg	10 kg	10 kg	10 kg
	壤質田	40 kg	35 kg	35 kg	10 kg	30 kg	10 kg	10 kg	12 kg
	粘質田	35 kg	30 kg	30 kg	10 kg	25 kg	10 kg	10 kg	12 kg

※大豆跡田は、基肥量を5~7割減らし、倒伏に強い品種の作付に努めましょう。又、土壌改良資材を必ず施用しましょう。

適正な農薬使用で安心な米づくり

病害虫防除体系

基本防除体系の徹底

● 苗箱施薬 (1箱当たり50g)
※ただし高密度に播種する場合は、1kg/10a (育苗箱1箱当たり50~100g)
● ブーンレバード箱粒剤
又は、スタウトアレモンガシ箱粒剤
● いもち病
● 紋枯病
● 白葉枯病
● イネドロオイムシ
● イネニムズウムシ
● ニカメイチュウ

● 穂揃期 (10a当たり3~4kg)
● ラブサイドキップ粉剤DL (収穫14日前まで)
● いもち病
● ウンカ類
● カメムシ類

● 傾穂期 (10a当たり3~4kg)
● トレボンスター粉剤DL (収穫7日前まで)
● カメムシ類
● ツマグロヨコバイ

水稲除草体系

※下記の図は、使用時期の目安であり残効期間を示すものではありません。

体系処理
一般的使用例
一発処理

代かき 田植え 5日 10日 15日 20日 25日 30日

田植え時~ノビエ1.0期 (田植え後5日頃)
メテオ1キロ粒剤
クラール1キロ粒剤

田植え後3日~ノビエ1.0期 (田植え後8日頃)
マージョット1キロ粒剤

田植え後3日~ノビエ1.0期 (田植え後5日頃)
メテオジャンボ

田植え時~ノビエ2.5期 (田植え後13日頃)
ベッククジャンボ
ディオール1キロ粒剤

田植え時~ノビエ3.0期 (田植え後15日頃)
ジャンダルムMX1キロ粒剤
クサウェン1キロ粒剤

田植え時~ノビエ3.5期 (田植え後17日頃)
ゼータプラス1キロ粒剤

田植え後3日~ノビエ2.5期 (田植え後13日頃)
ベッククジャンボ
ベックク豆つぶ250

田植え後1日~ノビエ2.5期 (田植え後13日頃)
クサウェンジャンボ

田植え後3日~ノビエ3.0期 (田植え後15日頃)
ジャンダルムMXジャンボ

田植え後3日~ノビエ3.5期 (田植え後17日頃)
ゼータプラスジャンボ

除草剤の効果をも高める7つのポイント

- 代かきはいないに行い、ほ場の均平に努める。
- 代かき後に気温が高いと雑草の発生・生育が早まるので、遅れずに散布する。
- 代かきから田植えまでの期間を長くしない。
- 湛水状態で散布する場合は水の出入りを止め、5cm程度の水深を保ち散布する。
- 除草剤散布後は、5日間程度湛水状態を保つ。
- 散布後7日間は「落水」や「かけ流し」をしない「止水管理」とし、水田外への流亡を防ぐ。
- 田植同時散布機 (こまきちゃん、イノベーター等) を使用する場合は、薬剤によって粒径や比重が異なる散布量が変わるので散布機の散布量調整を必ず行い、適量を散布する。

農薬の適正使用について ~ 農薬は使用基準を守り、正しく使いましょう! ~

- 農薬の使用前に、ラベルの内容を確認し、使用基準を必ず守って使用して下さい。
- 使用時期、使用量及び使用回数などの使用方法を遵守し、適正に使用して下さい。
- 散布は周囲への飛散を防ぎ、適用作物以外の作物にかからないように、風向きや風速に注意して行いましょう。

なのはな米の仕上げはカントリーで!

雑草が残った場合

● 広葉雑草が残ったら
バサグラン粒剤
田植え後15~50日まで (但し、収穫60日前まで)
晴天が2日以上持続する時を選び、湛水状態で散布し、3~4日間は入水や落水をしない

● ノビエが残ったら
クリンチャー 1キロ粒剤
田植え後7日~ノビエ3.0期まで (但し、収穫30日前まで)
湛水状態で散布し、5日間は湛水状態を保つ

● トドメMF乳剤
田植え後14日~ノビエ3.5期まで (但し、収穫50日前まで)
落水状態でも散布し、3~4日間は入水や落水をしない

● ノビエと広葉雑草が残ったら
クリンチャーバスマE液剤
田植え後15日~ノビエ3.0期まで (但し、収穫50日前まで)
晴天が2日以上持続する時を選び、湛水状態で雑草の葉面に薬剤が付着するように散布し、3~4日間は入水や落水をしない

● トドメバスマE液剤
田植え後15日~ノビエ3.0期まで (但し、収穫50日前まで)
晴天が2日以上持続する時を選び、湛水状態で雑草の葉面に薬剤が付着するように散布し、3~4日間は入水や落水をしない

● ロイヤント乳剤 (クサナメ対策)
移植後20日~ノビエ3.0期まで (但し、収穫45日前まで)
落水状態で雑草の葉面に薬剤が付着するように散布し、3~4日間は入水や落水をしない

1. 良質米の出荷に努めています。
・均て高品質、おいしい米に仕上げます。
・消費者へ今播米として出荷します。

2. 生産コストの低減につながります。
・個人で乾燥機や初すり機を所有しないため、農機具代が低減できます。

3. 作業の省力化ができます。
・乾燥、初すり、袋詰、出荷作業から解放されます。
・コンバインの刈取能力を最大に活かす、刈取期間が短縮できます。

なのはな農協では電子メールによる営農情報の提供を行っています。(登録は無料です)

営農情報提供サービスへのご登録はこちら

http://argo-navi.net/ja/mb_login.php

● 栽培管理情報
● 緊急的な気象情報と災害防止対策
● 緊急的な管理情報
● その他必要と思われる情報

※上記以外の資材の使用や、緊急な技術対策が必要な場合は、事前に営農指導員や関係機関にご相談下さい。